

4時間目

前時の学習を発展させ、本時は貧しい国や地域をいかに援助するか各班で討論した。その際、現在のODAについての意見交換も行った。貧困の原因を考え、どうすれば問題を抱える国や地域が自立できるかを意見交換した。討論の最中に意見としてあがった主だった「援助」の方法をあげると以下ようになる。

- ①通貨を世界共通にし、経済の「壁」をなくす。
- ②言葉を世界共通にし、お互いの考えや意見を十分交換する。
- ③国境をなくし世界をひとつの国にして、「格差」を解消する。
- ④貧しい地域の子どもたちを先進国で学ばせて、技術や発想を持ち帰らす。
- ⑤インターネットの設備を充実させ、情報の伝達をスピード・アップさせる。

学習の最後として、「君は貧しい地域や国にどんな援助ができるか。」というテーマで、作文し発表した。今回の学習は「個人の学びから集団の学びへ」発展させ、最終的に「集団の学びから個人の学びへ」戻すことを研究課題の一つとして考えた。残念ながら4時間扱いのため、十分な時間がとれず代表の生徒のみの発表となってしまった。しかし、資料4のように自分なりの意見を述べる生徒が少なくなかった。その意味で、他人の意見を参考にして学習を深めるとい目標はかなり達成できたと思われる。

生徒の主張に共通する事は、現地で自分の五感を活用してその「違い」を実感する事を前提としているものが多かった。さらに、大規模な経済援助でなく、その地域に「今、本当に必要なもの」を提供するという意見が多かった。本校では、「総合的な学習の時間」の試行が4年目になり、年間を通して外部講師として外国人や青年海外協力隊の帰国隊員が生徒と共に学習する機会が多いので、かなり生活に密着した視点でものを判断する力がついてきているようである。印象的な声を抜粋すると以下のような意見が見られた。

- ・貧しいかも知れないけど、もしかしたら私達よりずっと幸せかも知れません。
- ・忘れてならないのは、現地の人達の気持ちだと思います。現地の人達と同じ気持ちになって、はじめて具体的な援助を考えればよいのではないのでしょうか。
- ・その地域の人達と1か月ぐらい一緒に生活して「私たちにできる援助とはなんだろう」と考えて導き出した答えを実行するのがよいのではないのでしょうか。
- ・教育が遅れているとなぜいけないのか。教育は人を育て、必要な知識や技術を学ぶ大切な場所だと思う。教育が変われば、政治が良くなるのではないのでしょうか。
- ・貧しい国と豊かな国をくつつける。つまり「国境をなくす」というのも解決の方法としては、よいのでしょうか。
- ・貧しい国の人達は常に不安感にかられていると思うので、その不安を取り除くことができれば、前向きな考え方ができるようになるのではないのでしょうか。

成果と課題

今年の夏、中学校教師海外研修に参加して訪れたザンビアでの感動が、今回の授業づくりの契機につながった。延々と歩き続けるザンビアの人、キラキラとした目で私たちの話に耳を傾けてくれたザンビアの高校生、胸をはって乳幼児の保健指導にあっていたザンビアのボランティアのリーダーたち。今回の授業でも使用した写真の貧しい地域の商店の姿は「貧しさ」を考える上で、貴重な教材となった。私自身が皮膚で感じた「貧しさ」を写真・資料と体験談を通して伝える事ができたかどうかは断定できない。しかし、生徒の学習で見せた積極的な姿勢は「素材」の良さにあつたと言える。普段から様々な国の人々が来校しているので、他人事でない「顔の見える援助」に拘った生徒が多かったようである。

今回の学習の成果は、平常の授業では政治・経済といった公民的分野の教科内容にあまり興味を示さない生徒が積極的にグループ討論に参加している姿

に現れたようである。また、現行のODA（政府開発援助）に影響されずに、「援助」の意味を自分なりに考え、自分の力で課題解決していこうとする姿勢が見られた事も大きな成果と言えるのではないだろうか。

わが国では「開発教育」がまだまだ一般化されているとは言えず、「援助」というと資金や物品などの見える援助に偏りがちだが、「素材」を慎重に選択することができれば、かなり学習は深まると確信できた。

今後も生徒の感性を磨きながら学習を深めるためには、学習を支援する教師自身の感性を磨いていかなければならないであろう。そのためには、私たち教師が現代社会の「現実」を正確に伝えると共に、生徒一人ひとりの考えや意見を今まで以上に尊重していかなければならない。そして、知識の定着ばかりでなく生徒の「気づき」や「疑問」を大切に、人間の「息遣い」を感じられるような学習を創造していかなければならない。

国際協力、ラオスの自立

— 同じ人間として共に生きていこう —



中野喜久

NAKANO YOSHIHISA

奈良県生駒市立生駒中学校／社会科

実践教科／社会科（国際理解教育）、学級活動、道徳の時間

時間数／5時間

対象生徒・学年／中学校1年

対象人数／37名

カリキュラム案

■実践の目的

まず、事前のアンケート（1年4組、37人）結果を示す。

- ①行ってみたい地域では、オーストラリア（47%）、北アメリカ（29%）、ヨーロッパ（19%）の順であった。
- ②知っている歴史上の外国人の名前を3人書かせたところ、ザビエル・ペリーなど歴史上の人物（63%）、ベートーベン等音楽関係（13%）、マグワイヤなど野球選手（9%）であった。
- ③日本で日本人と外国人のトラブルがあったとき、
 - A. 外国人が考えを改めるべきだ（34%）
〈ここは日本だ、日本の習慣を知れ〉
 - B. 日本人が考えを改めるべきだ（21%）
〈日本は今きらわれているからやさしくする、先に改めるほうがケンカにならない。〉
 - C. 外国人も日本人も双方が改めるべきだ（45%）
〈どちらも考えれば争いが無い、平等だ、思いやりでトラブルがなくなる。〉

この結果から、欧米の文化に興味やあこがれを抱き、アジアへの関心は薄いこと。また、「日本の習慣を知れ」と自文化中心主義に固執する一方で、「日本は嫌われているから」と外国人に対し必要以

上に気を遣う者が多いことがうかがわれる。外国人と共生していく態度の育成が期待されるのである。

「国際理解教育は、単なる3F（フード・ファッション・フェスティバル）に終わる傾向がある」とよく指摘される。そこでは、アジアの「文化の多様性」を強調するあまり、テレビのクイズ番組に見られるような「珍しいもの」学習として生徒にとらえられてきた。その結果、生徒にとっての外国とは欧米であり、それ以外の国の人は「珍しいもの」として知識・理解の段階にとどまってきた。つまり、「ラオスの子どもたちが貧しいからかわいそう助けなければ」と思うことはできても、「同じ人間として共に生きていこう」とする心情に至らないのである。また、この日本との違いを強調する学習が、開発途上国へのステレオタイプ的な一面的理解や偏見・差別を助長する可能性もあった。

そこで、①相互依存性②文化はちがうが、人間としての願いは同じ③人類の連帯（これが欠落すると「かわいそうに」で終わってしまう）で構成されたカリキュラムを作成した。このカリキュラムによって、日本人のアジア蔑視の考え方と自文化中心主義を是正し、「共生」していこうとする態度の育成を図ることが目的である。

■授業の構成（国際理解の観点から）

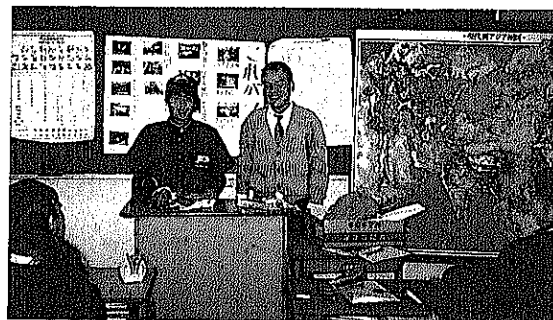
時間 / テーマ / ねらい	方法・内容	使用教材
1時間 「知る段階」社会科 ○「ラオスの全体像をつかめ」 ◎貧しさだけにとらわれず、ラオスの位置・産業・歴史などの基礎知識を楽しみながら学習する	ビンゴゲーム「ラオスを知ろう」をしながら、ラオスの多様な姿を知る。	「任国情報」JICAを元にして筆者が作ったビンゴ用紙 ラオスで収集した地図・写真・土産など （資料1）
2時間 「深める段階I」社会科 ○「人間はみんな違うが、人間としての願いは同じだ」 ◎各国の文化の多様性に気づかせる一方、人間としての共通の願いに着目させ、次時の伏線とする。	(1)前半は、人間は多様であることに気づかせ、コミュニケーションの重要性を話し合う。 (2)後半に、読み物資料やクイズ「顔写真比べ」「ラオス・フランス・日本のことわざ」によって、ラオスの人たちも、自分たちと共通の願いをもっていること理解させる。	(1)「ヒューマンライツーたのしい活動事例集」明石書店 「イカを食べるのは野蛮人か」「話せばわかることもある」「国際理解教育」明石書店 (2)「人権時代の生涯教育一啓発の理論と方法」解放出版社 ハングルで書かれた「ガリバー旅行記」 （資料2）
3時間 「深める段階II」社会科 ○「日本だけが豊かでないか」 ◎世界の富は不公平な状況にあることを知り、ODAの必要性を体験的に学ぶ。また、自文化中心主義を克服させ、共存するための価値観を育成する	(1)みかんを不公平に配り、配られたときの気持ちを話し合う参加体験型の学習を行う。 (2)ODAの必要性を話し合う。 (3)6枚のカードに分けられた「引っ張り合う馬の絵」を並べ替えるゲームを通して、国際協力あり方を考える。	(1)「GNP地図」 (2)「学校へ行きたい」JICA (3)「ぼくら地球調査隊」 フォトニュースのポスター
4時間 「深める段階III」道徳 ○「ソムリスの夢」を共有しよう ◎ラオスの人々が自国に誇りをもっていることを理解させ、具体的な国際協力のあり方を考えさせる	(1)ラオスの少年、ソムリスの心情に注目させ、どのような援助が求められているかを考える。 (2)真の豊かさを追求し、国際協力に携わった医師をテーマにした歌、「風に立つライオン」を聞く。 (3)ソムリスに手紙を書くことで考えをまとめさせる。	(1)現地でのソムリス君へのインタビュー、「ラオスの教育と教員養成」木内行雄JICA専門家、「授業に役立つ総合学習の手引き」JICAを参考にして筆者が自作した読み物資料 （資料3） (2)「風に立つライオン」さだまさし
5時間 「まとめる段階」学級活動 ○「国際化の決め手はこれだ」 ◎これまでの学習を振り返り、意見交換をする	グループで国際化に焦点を当てたランキングゲームをし、クラスで発表する。	

授業の詳細

1時間目 ラオスの全体像をつかめ

「ラオスは日本と違い年取は少ない、あまり進んでいない国だな。ラオスは人口が少なく、いなかで貧しい。日本とは違うところがいっぱいあったが、日本とは別のおもしろさがありそうだ。」

全く知らなかったラオスをビンゴゲームを通して



「これがラオスだ」

楽しく学習していた。「覚えようとしなくても、頭に入ってくるのでよかった」と生徒に好評であった。(資料1)

2時限目

人間はみんな違うが、人間としての願いは同じだ

「ことわざの意味や顔もそっくりだ。きっと同じ考え方をすると思う。」

ラオス人と日本人の顔やことわざが似通っていることを通して、人間のもつ共通性に気づき、アジアへの連帯感が芽生えている。(資料2)

3時限目

日本だけが豊かでないのか

「みかんをたくさんもらった班がうらやましかった。何でこんなに不平等なのか。貧しい人たちの気持ちがあった。」「世界が平等になるのはむつかしいんだな、大変なことに気がついた。」

貧しい国の現実を疑似体験し、「富の分配」の不平等さを実感した生徒が多かった。

「昔、日本も援助してもらっていたとは知らなかったのでびっくりした。今は反対に日本が助けて今があるのだから助け合いは大事だなと思った。」「一人あたり1万円では少ないかも知れない。自分の国だけじゃなく、世界の国も自分の国と思いました。世界づくりは助け合いなんだなあ。」

自文化中心主義を克服しているようすが書かれている。ODAの必要性や他国との相互依存性を明確にするのに、『学校へ行きたい』(JICA)やGNP地図が役立った。日本も新幹線をつくる時、援助してもらったという話は生徒たちに強い印象を残した。よい資料には説得力があり、生徒の心が動く。

4時限目

『ソムリスの夢』を共有しよう

紙布織りを使いラオスへの援助のようすを説明しながら、自作資料「ソムリスの夢」を読んだ。生徒の読後感は、以下の3つに分かれた。(資料3)

「村は変わるべき」派 (32%) - 「このままだと病気の人の治る確率が少なく、文字も読めない、変われば問題が出るかもしれないが、問題を解決したらよい村になる。」

「村はそのままがよい」派 (26%) - 「ソムリスがなれている生活の方がすみやすいし、村にしかない文化や楽しいことがたくさんあるからです。」

「中間」派 (42%) - 「村がビエンチャンのようになるのはよくないが、貧しすぎるのはだめだ。村には電気や病院・学校などの最低限必要なものを援助したらいいと思います。車や工場など余分な物は援助しない方がよいと思います。」「援助はいろいろあるが、一番いいのは農作物の栽培技術だ。その方が次にうまれてきた子がそれを受けつぎ、暮らしていける。」

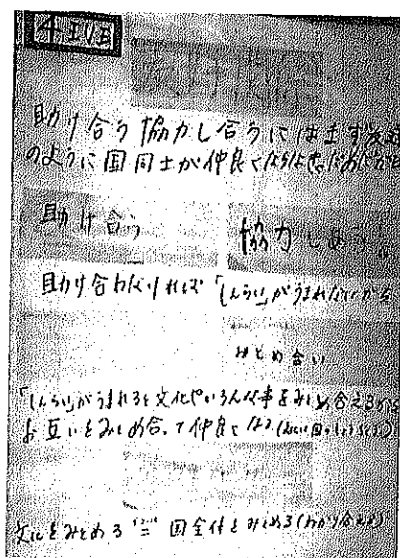
大人が議論しても、よく似た意見が出るであろう。集団の意見と自分の意見の違いが明確になるように、生徒一人一人の意見を丹念に板書した。次に、どの意見も間違いではないことを伝え、さだまさしの感動的な歌で余韻を残して授業を締めくくった。

また、ソムリスの生き方にふれ、「ソムリスの言うことは正しい。われわれ日本人もソムリスのように考える必要がある」と自分自身の生き方を見直した生徒がいた。

5時限目

国際化の決め手はこれだ

- ①カードに「国際化で大切なもの」を書く、②そのカードをもってグループをつくる、③重要なものからランク付けをする、④発表の練習をする、⑤発



「国際協力の決め手はこれだ」

表する、⑥質問や意見交換をするという参加体験型の手法で進めた。

発表後、「話し合うこと」と「友好の気持ち」はどちらが大切かが話題となった。「話し合いにより戦争がなくなる」と主張する生徒に対し、アメリカ同時多発テロを例に「友好の気持ちがなければ話し合いはむだだ」と応じる場面が見られた。話し合いが白熱する。

この学習の感想は、以下の通りである。

「ゲームから勉強する学習は、いつもの学習より分かりやすかった」—13人

「自分の国がふつうだと思っはいけないと思った」—4人

「意見が違っているからおもしろいことが分かった。話し合うことはいいことだ」—4人

「差別や偏見はよくない。いろんな見方がすべて正解だと分かった」—3人

ゲームなどの参加体験型学習や生徒の興味に即した学習内容が、学習を活性化させたと考えられる。

成果と課題

学習の成果として、次の2点を挙げる。

- (1) 「多文化共生」、「相互依存性」などを指標に最終のアンケートを行った。その結果、右上の表のように全体的に平均(3.0)を上回った。国際理解について、中学生なりに理解が進んでいると考えられる。また、国際協力のあり方をラオスの立場からも考えさせることができた。

「ラオス学習」アンケート

	項 目	評価
1	世界の国々にはいろいろな文化があるが、人間としての願いは同じだ	4.3
2	世界の国々はつながりを持ち、互いに支え合っている。	3.7
3	外国人とトラブルが起きたときは双方が考え直すべきだ	4.6
4	ゲームの学習は、ふつうの学習よりもよく分かる	3.7
5	国際化とは、外国人と「共に生きる」ことだと思う	3.8

- (2) 「ゲームからいろいろなものにつながりおもしろい。自然に勉強ができた。」など参加体験型の学習を好意的に受け取っている感想が多かった。この学習方法が、国際理解教育に適していることがうかがわれる。これを成功させるためには、生徒の主体性はもとより、教師の許容的な態度と話の流れに即したコメントが必須であることは言うまでもない。

次に、今後の課題を述べる。

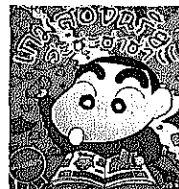
本実践に外国人をゲストティーチャーとして招くとか、JICA（国際協力事業団）を訪問して調べ学習をするなどの活動を加えると、「総合的な学習の時間」として発展させることもできよう。

人間は否応なく「文化」を背負いこんで生きている。その払拭が困難であればあるほど、意図的・計画的な取り組みが必要となる。これからも創意工夫を生かし、学習プログラムづくりをするつもりである。

資料1

ビンゴゲーム「ラオスを知ろう」

ラオスの首都はどこか？	ラオスの気候は、熱帯・温帯・冷帯どこに入るか。	ラオスは、どこ の植民地であつたか？	ラオスは、現在「資本主義国」かそれとも「社会主義国」か？
ラオスを流れている大きな川の名前は？	ラオスの面積は、次のどれと同じか。(本州・北海道・四国)	ラオスの人口は次のどれと近い か。(500万人・5000万人)	ラオスの産業は、下のどれがさかんか。(工業・農業・漁業)
ラオスの民族は、ラオ族だけである。(イエス・ノー)	ラオスは、植民地になる前、どんな国であったか。(王国・民主主義国)	ラオスの主な輸出品は何か。	ラオスでは、何語が話されているか。
ラオスの主食は何か。	ラオスの一人あたりの年収を次の中から選べ。(約1万円・約3万円・約100万円)	ラオスと政治的に仲のよい国を次から選べ。(ベトナム・タイ・インド)	ラオスでもクレヨンしんちゃん が人気がある。(イエス・ノー)



縮小してビンゴゲームのカットとして利用してください。

資料2

東西のことわざ比べ

ラオス・フランス、日本のことわざが、次に紹介してあります。同じ意味をもったことわざを線で結んでください。

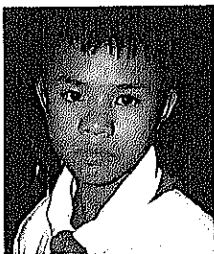
ラオス	フランス	日本
A. 猿の手においしく炊けたご飯を置く	1. あまり強く抱きしめたら、しがみつけない	ア. 猫に小判
B. 自分のご飯を食べる	2. 自分のドアの前を掃除する	イ. 過ぎたるはおよぼざるが如し
C. 上手すぎる足は、木から落ちる	3. 子豚にパールをあげる	ウ. 自分のことは自分でする

どんなことに気がつきましたか。



「ソムリスの夢」

「3日間、山道を歩いて参加した子どもがいます。」という紹介に耳を疑った。JICA(国際協力事業団)が日本の援助のようすをアピールするため、ラオスの子どもたちを首都ビエンチャンへ招待していた。そのうちの一人、ソムリス(12歳、写真上)のことだった。ソムリスは数学が得意で、サイプリアン県で3番の好成績を上げたので選ばれたのだった。



ソムリスの住む村は人口400人足らずの小さな農村で、首都ビエンチャンから北西へ約300キロの山中にある。激しいスコールでくずれ落ちた岩が集合場所への道をふさぎ、車は通れなかった。ソムリスはあきらめかけたが、ビエンチャンを見たり、他の県の友達に会うチャンスを見失った。「間に合わなかったらどうしよう」と朝の10時から真夜中の1時まで必死で歩いた日もあった。一緒に歩いてくれた何人も友達に助けられ、3日間雨季の山道を歩き通したのだった。

やっとたどり着いたビエンチャンは初めてのものばかりであった。車と人の多さにびっくりし、乗ったことがないバスに目を回し、食べすぎて体調もすぐれなかった。それでも苦痛でゆがむ顔を帽子で隠して辛抱した。旅行の終わりの頃には、バイクの食事を食べ過ぎては体に悪いと近くの食堂に行き、一人でラオスのラーメンを食べるたくましい一面を見せるようになった。

ビエンチャンでは、日本の援助でつくられた飛行場管制塔、テレビ放送局やナムグンダムを見学した後、次のような日本の援助のようすを説明してもらった。

1つ目は、JICAによってつくられたかんがい施設のおかげで、もち米の生産が2倍になったこと。

2つ目は、森林が守られるようになったことだった。ラオスでは古くから焼畑農業が行われていたが、最近それが広がりすぎてしまい、土地はやせ、はげ山が目立つようになった。これを改善するため、JICAの援助で焼畑に代わりバナナやパイナップルが栽培され(写真右下)、森林を守ることと新たな収入を得ることができたのである。

3つ目が「紙布織」を作るようになったことであった。ラオスの女性は母から機織りを習う。これまででは、機織りに使う糸をタイや中国から輸入するので一生懸命に機織りをしても、少しの手間賃しかもらえなかった。そこで、JICAが日本の手漉き和紙の技術を紹介してくれた。ラオスは「森の国」と呼ばれるほど森林資源にめぐまれ、カジキがたくさんある。その木から作った紙を細く切り、糸で紡いで作る「紙布織」という織物を売って収入を得ることができるようになった。

これらの説明を聞きながら、「日本人はラオス人を「仲間」と見てくれ、助けてやるのでなくラオス人とともに村づくりをしてくれる。だから、ラオスの人たちはやる気を起こし、仕事に精を出すのだ。」とおじいさんが言っていたことを思い出した。

旅行の最後に、ラオスを代表するタートルワン寺院や困難に負けずに国づくりに励んだカイソン大統領の博物館を見たとき、ソムリスはこれ以上日本に頼ってはならないと思った。ラオスの大人は「日本に感謝するように」と言うが、ソムリスは日本への感謝の念をもちながらも、自分の国は自分で努力してつくりたいと決心するのであった。

だが、ソムリスは悩んでいた。村には小学校があるが、電気も水道もない。竹と木で作られた校舎の机やイスは村の人たちが作ってくれたもので、教科書もゆきわたっていない。村の大人は、半分以上は字

が読めない。また、小さい子どもが1000人中140人が病気で死ぬので、平均寿命は50過ぎである。こんなことを考えると、ラオスの生活を高めなくてはならない。

しかし、見学したビエンチャンではお金に頼る生活が始まり、ものの値段が上がりに、交通事故が増えている。また、悪いことに甘いお菓子やジュースが入ってきたため、歯磨きの習慣がないビエンチャンの子どもは虫歯になることが多い。さらに、「クレヨンしんちゃん」に人気があり、子どもはテレビばかり見ているらしい。

それに比べ、村では昔からモチ米と野菜・川魚の食事で自給自足の生活を営んでいる。一家族の年収は約4万円と日本の100分の1ほどであるが、食べ物には困らない。お金はほとんど必要がなく、お金がいるときは農作物を市場に売りに行き、もうかったお金で必要なものを買うという生活である。

自分は得意の数学を生かし、ラオス国立大学の工学部でコンピューターの勉強し、村を豊かにしたいと思っていた。しかし、村がビエンチャンのようになつたら……。自分のために一緒に歩いてくれた優しい友達がいっぱいいいて、助け合って生活してきた村の生活は変わってしまうかもしれない。第一、村にコンピューターは必要なのか。帰りの飛行機の中で、ソムリスは考え込んだ。

〈ソムリスの村はこのままでいいのか、それともどのように変わるのがよいのか。その答えをソムリスに手紙で教えてやろう。〉



アジアの仲間

— ラオスの人々の表情を描こう —



白山真澄

SHIROYAMA MASUMI

愛知県豊田市立豊南中学校／美術

実践教科(時間数)／総合学習(6)・美術(2)・その他

対象生徒・学年／中学校2年 対象人数／1クラス34名

カリキュラム案

■実践のねらい

今回の海外研修は、私にとってはじめて、開発途上国の生の姿に触れる機会であった。先進諸国との社会基盤のちがいについて考え、国際協力の現場で働く多くの人々の努力に感動し、2国間の協力と信頼を築く、日々の積み重ねの尊さを学んだ。

そして、何より強く印象に残ったのは、ラオスの赤い土と、そこに暮らす人々の温かい笑顔だ。GNP400ドルは確かに貧しい。しかし、かつては400年も続いた豊かで平和な王朝があったという歴史や、商業主義に侵食されていない昔ながらの文化を身にまとった、穏やかで親切なラオスの人々の姿には尊敬の念さえ感じた。

この貴重な体験をどのように生徒に伝えようかと考えながら、あわただしく新学期を過ごすうちに、「9月11日」のあのショッキングな映像が飛び込んできた。

はじめは、ニューヨークの人々の嘆きと憤り、そして日がたつにつれ、アフガン難民や子供たちの表情から目が離せなくなり、先進国とアフガニスタンの関係についての疑問や不安が頭から離れなくなってしまった。

生徒の中にも、事の重大さを肌で感じているものがおり、話題にもものぼるが、この21世紀最初の世界的大事件は、世界をどういう方向に持っていくのか、大人にも子どもにもまったく先が読めない。確実な予測ができず、価値感の対立の中で、自分が拠って立つところを探っていかなければならないのが21世紀とすると、不確実なままの現実を教室で考える機会も大事ではないかと考え、現在進行形の対立を題材にこの授業をスタートさせた。

一瞬で崩れ去る世界も、築き上げるには長い年月の協力や信頼が必要なことを生徒に気づかせ、世界への信頼感を大事にさせたい。

どこの国も、地に足をつけて生活している人々の姿は尊く、また親しみの持てるものだということに気づき、世界のバランスと調和に思いが至る人になってほしいというのが願いである。



バーミーで幸せや平和を祈るラオスの人々

授業の構成

時間	テーマ	ねらい	方法・内容	使用教材
1時間 9月	○対立の構造 ◎対立の構造を考え、対立の連鎖を切る	・ニュースで知った事柄を確認。 ・対立の構造を考え、対立の連鎖を切る方法を話し合う。	・新聞切り抜き ・対立の構造のカード (資料1)	
2時間 10月	○発展途上国ってなに？ ◎発展途上国と先進国について、自分たちがどんなイメージをもっているかを知る	・1・2年生各2クラスから集めた、アンケートの結果を知る。 ・開発途上国・先進国に対するイメージと現実とずれがあることを知る。	・アンケートの結果 (資料2) ・インターネットの記事	
3時間 10月	○貿易ゲーム ◎経済力の不均衡がもたらすものを考える	・ゲームを行い感想を書く。 ・それぞれの立場の感想を発表する。	・「新しい開発教育のすゝめ方」参照	
4時間 10月	○見えない世界を描く ◎人の話からイメージするものと、本物の映像の距離に気づく	・4～5名の班を作り、1名が写真を見て言葉だけで説明する。他の生徒はそれぞれ絵で表現する。 ・お互いに難しかったことを話し合う。	・アジアの写真 「フォトランゲージキット」の一部とラオスの写真 ・画用紙	
5時間 11月	○ラオスってどんな国？ ◎教師の体験を通して、アジアの身近な発展途上国の姿を知る	・クイズに答える中で、ラオスの人や社会の様子について知る。	・ラオスクイズ (資料3) ・「平成12年度国際理解教育の手引き—高校版—」参照	
6・7時間 11月	○ラオスの人々の表情を描こう(美術) ◎色紙に毛筆でラオスの人や風景の絵を描き、メッセージを添える	・ラオスの人や風物で、心惹かれる写真を探し、筆で色紙に絵を描く。 ・ラオスの人へメッセージを添える。 ・互いの作品を鑑賞する。	・ラオスの写真(珍しい風景、人々の表情が豊かなものを多数用意する。) ・色紙、筆ペン、絵の具	
8時間 12月	○同じ地球の仲間 ◎青年海外協力隊、専門家、NGOで活動する人々の姿を知る	・ビデオ「JICAくんの国際協力ってなに？」を見て、感想を書く。 ・ラオスで出会った、日本人の写真を見てエピソードを聞く	・JICAビデオ ・JICAホームページの記事 ・写真	
9時間 12月	○私たちにできること ◎チャリティ・バザーアジアの子供たちへ	・文化部の有志が、小さな作品を作り、バザーを行う。売り上げをアフガンの子どもに寄付する。	・ボランティアの支援	

授業の詳細

1時間 対立の構造

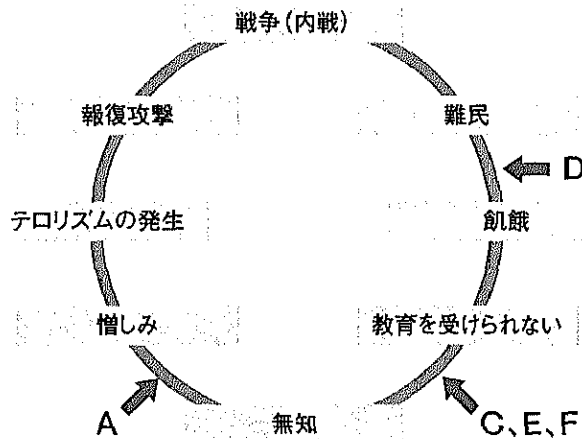
～対立の連鎖を切りたい～

この授業を行ったのは、「米国同時多発テロ事件」

の後、米国の報復の世論を高め、準備していた時期である。日々のニュースには緊張感があり、世界中が動揺していた。この時点でわかっている断片的な事柄を整理して、対立の連鎖とその輪を切る方法をクラスで考えた。はじめは4人ずつの班で対立の連鎖を組み立て、どこで、どんな手立てで連鎖を食い

資料1

用意したカードと話し合いの結果



☆どこで輪を切ると最も実行しやすいか？その方法は？

- A. テロの撲滅
- B. 経済的制裁
- C. 教育
- D. 緊急援助
- E. 産業をおこす
- F. 貿易・経済活動

「もし自分が看護婦なら、緊急援助に行く」

「もし自分がアメリカ大統領なら、戦争をやめて条約を結ぶ」

「もし自分が先生なら、難民を教えたり、募金をしていろいろな人を助ける」

「もし自分が外務大臣なら、いろんな国と交流し、最初からどのような状態か知っておく」

止められるかを考えたものを発表し、全体でひとつの案を作った。国際援助や自立への支援が大切なことをここで押さえた。

この現在進行形の事件を考慮しておくことは、生徒たちが成長して、世界の情勢を考える時に小さな、でも一番最初の経験として種をまいたことになるとうれしい。(資料1)

2時限 途上国ってなに？

1・2年生計4クラスのアンケート結果を見ると、日本が先進国の仲間、世界第2位の経済大国であることを知らない生徒が多かった。「自分はぜいたくをしているなあと思った。」という声があがった。(資料2)

4時限 見えない世界を描く

- ・4~5人の班に分かれ、代表者1名だけが写真を見る。
- ・代表者は写真について、わかりやすく5つの説明をする。
- ・他のメンバーは説明を聞いて絵を描く。
- ・それぞれの班で一番わかりやすく描いている絵を

1枚選ぶ。

- ・8班のそれぞれの写真と絵を並べて黒板に貼る。
- ・話し合い。
- ・感想をまとめる。

生徒の反応

- ・言葉を聞くだけだと、どうしても日本のイメージにあてはめてしまう。
- ・言葉だけでは、自分の想像が突っ走って、勝手なイメージが生まれる。写真を見れば本当のはっきりしたことがわかる。
- ・写真は見るだけだから、イメージはつかめてもパッとしない。実際に行ってみるとちがったりすることもある。(海外帰国生徒の意見)
- ・一つ一つのことをくわしく考えて、ひとつでもたくさんを発見したい。
- ・相手の気持ちも考えたい。

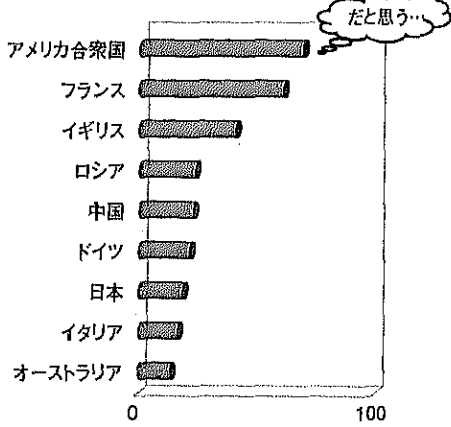
5時限 ラオスってどんな国？

クイズ形式で興味を持たせながら、私がラオスで見えて来たもの、学んできたことをパワーポイントの資料で生徒に紹介した。この資料は、前年度の国際

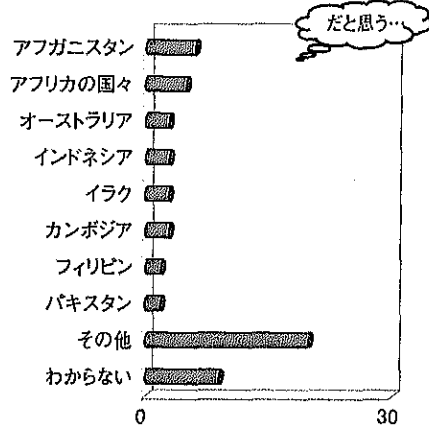
資料2

アンケートの結果

先進国ってどこ？



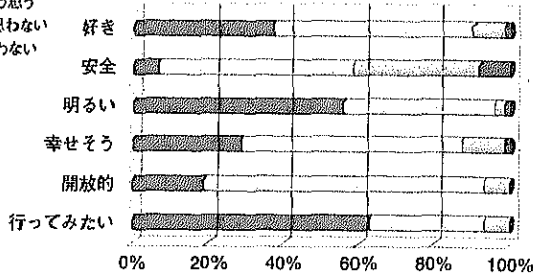
開発途上国ってどこ？



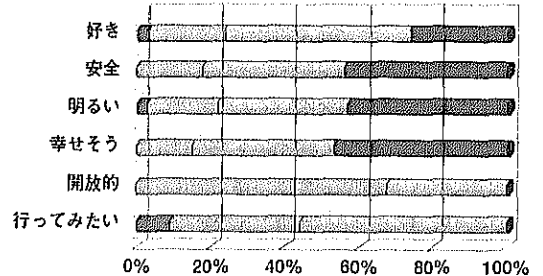
イメージ

- そう思う
- ややそう思う
- あまり思わない
- 全く思わない

先進国のイメージ



発展途上国のイメージ



国際協力に関心はありますか？



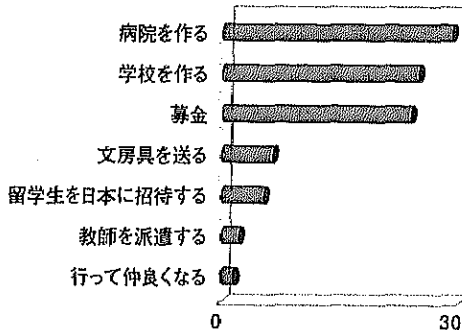
- とても関心がある
- 関心はあるが、内容がよく分からない
- 関心はない

日本はいろいろな援助をしています。今後の援助活動はどうすればよいと思いますか。



- もっと積極的に
- 多少は積極的に
- 減らすべき

開発途上国の子どもたちに役立つ援助は何ですか



理解教育の手引きを参考にして作ってみた。飽きさせずに、ラオスのいろいろな側面を知らせるよい方法だと思った。(資料3)

日本人とよく似た感性を持つ人々の国、ラオスに親しみを感じさせ、発展途上国の現実と、そこで出会った人々の魅力もできるだけ伝えるように努めた。

6・7時限 ラオスの人々の表情を描こう

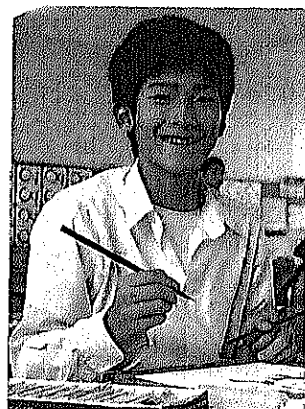
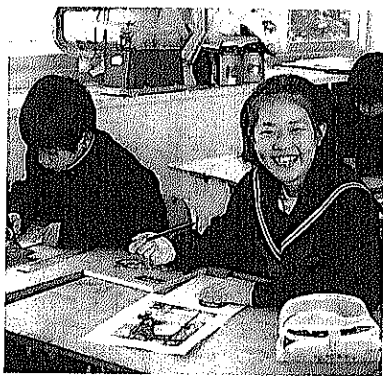
前時にラオスの人々や風物の写真、エピソードにたくさんふれ、親しみを感じたところで、絵手紙を描いた。生徒はこれまでに、絵手紙で友達の顔を描いたり、野外研修の思い出や風景を描いたりした経験がある。手軽に短時間で描けることと、心をこめて描くと、それぞれに味わいのある作品になり、見る人を楽しませる魅力が生まれることからこの表現を選んだ。絵手紙には、ラオスの人々への親愛を表現する簡単なメッセージをそえた。予想以上に楽し

んで集中して描いていたし、作品も生き生きとしたものが多かった。

作品の一部は国際コーナーへ「日本の子ども、アジアの子ども」として展示する予定。一部はJICAラオス事務所に送り、交流に利用してもらえないかなと思っている。ラオスの初等教育の学校と交流できることを望んでいたが、今回の研修ではそういうチャンスを得ることはできなかったのが残念だ。でも、学習を継続する中で、今後もさまざまな出会いが生まれると思う。次のチャンスに生かしたい。

生徒にとっては、人の話を聞き、写真を見て、観客として味わったアジアだが、自分の手でその世界を描くと、自分の中にその空気を取り込まれた気がするようだ。こういう体験の積み重ねが、外国や自分の知らない文化圏の人々への興味や親愛感を育むと思う。

生徒作品「親しみをこめて描こう～ラオスの人々」



8時限 同じ地球の仲間

ビデオ「JICAくんの国際協力って知ってる?」を視聴して、日本の国際協力について知った。また、教師がラオスで出会った青年海外協力隊員、専門家、JICAスタッフ等、国際協力の現場で働く日本人の姿を紹介した。

来年は修学旅行で東京での班別学習を行う。JICA本部への訪問もこれから計画に加えられると思う。

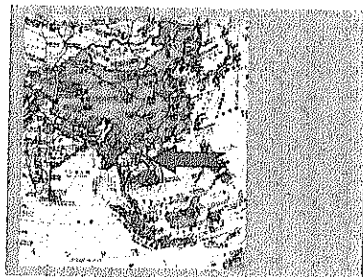
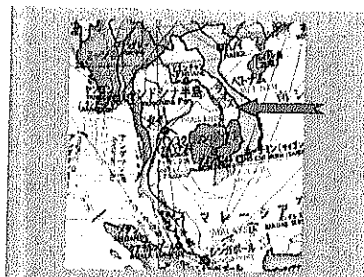
9時限 私たちにできること

美術部、文芸部の生徒が小さな作品を作り、バザーを行った。はじめての試みで、売り上げは決して多くはなかったが、生徒の相談の結果、国連難民高等弁務官事務所を通じて、アフガニスタンへ一部を、NGO団体オイスカを通じて「子どもの森計画」へ残りを寄付をすることにした。これをスタートに、これからもこの活動を工夫発展させていきたい。

資料3



ラオスクイズ第1問



ラオスクイズ第2問

ラオスの人口は?



ラオスクイズ第3問

ラオス(メコン川)の大きな川は?



ラオスクイズ第4問



ワット・シェントーン



原料油麻に製成された豆腐、ネアム(バニラのシシトフ)のシシトフ、ワットはお祈りの意味

朝の托鉢



ラオスクイズ第5問

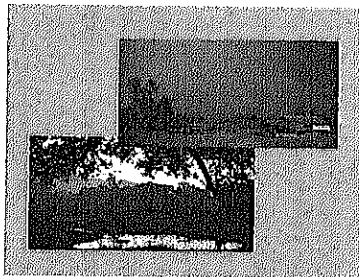


ラオスクイズ第6問

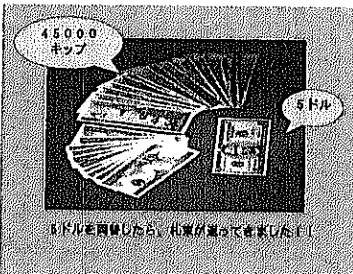


こんにちは ☆☆ サバアイディ
 ありがとう ☆☆ コブ チヤイ
 私の名前は ☆☆ コイ スー

ラオスクイズ第7問



ラオスクイズ第8問



ラオスクイズ第9問

ラオスの主食は？

- A. 米
- B. 小麦
- C. 芋



カオニャオ（竹籠に入ったもち米）が主食

手で
食べると
美味!

ラオスクイズ第10問

ラオスの人々は、お正月に何を食べていますか？

- A. 餅
- B. 雑穀
- C. 芋



餅を折りながら、手首に白米をまく、ハッピー。胸が熱くなり、心が豊かになる気がします。

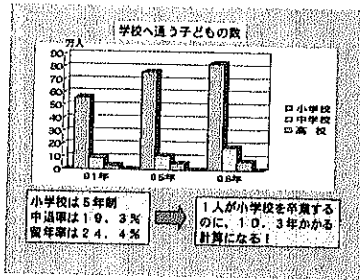


お花見し、おめがしました、村の皆さん

ラオスクイズ第11問

小学校の入学年齢は？

- A. 5歳
- B. 6歳
- C. 7歳



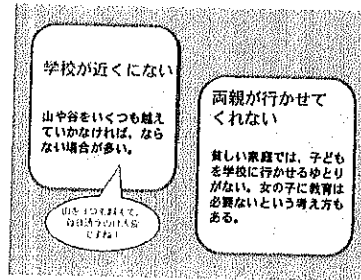
小学校は5年制
中途退学は10.3%
留年率は24.4%

1人が小学校を卒業するのに、10.3年かかる計算になる!

ラオスクイズ第12問

子どもが学校に行かない理由は？

- A. 学校が遠い
- B. 親が働いていない
- C. 学校に行かなくていい



学校が近くにない

山や谷をいくつも越えていかなければ、ならない場合が多い。

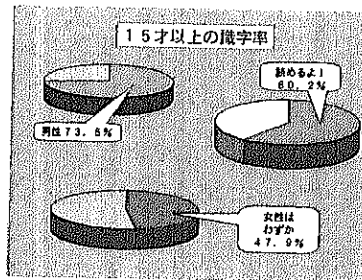
両親が行かせてくれない

新しい家庭では、子どもを学校に行かせるゆとりがない。女の子に教育は必要ないという考え方もある。

ラオスクイズ第13問

識字率が高いのは？

- A. 男性
- B. 女性
- C. 平均



15才以上の識字率

男性 73.6%

平均より 60.2%

女性は 47.0%

ラオスクイズ第14問

日本の57倍以下の人口で約1000人で、ラオスに...



ラオスクイズ第15問

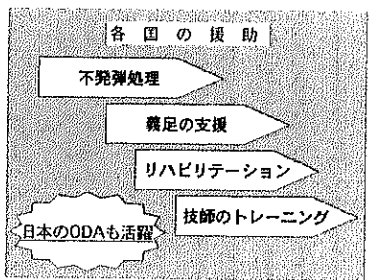
30年以上の間に...



世界で最も多くの爆弾の被害を受けた国
～ラオス内戦とベトナム戦争への空軍の軍事介入～

6万回以上の空襲	総量 200万トン以上の爆弾
----------	-------------------

戦後35年たった今でも、ボムル爆弾の不発弾による死者は、年間100人以上、負傷者は240人以上報告されている。



ラオスクイズ第16問

ラオスの平均身長



	ラオス	日本
男	52才	77才
女	53才	83才

★乳幼児死亡率が高いのも一因

日本★25歳から34歳までの死因の1位は自殺

ラオスクイズ第17問

ラオスが、外国から電力を大量に外貨を調達しているのは何でか



ナムグン・ダム

日本の援助 (ODA)

96億円

ラオス国内はまだ電化されていない地域も多いが、食った電気は、隣国のタイへ輸出して、貴重な外貨を調達している。

ラオスクイズ第18問

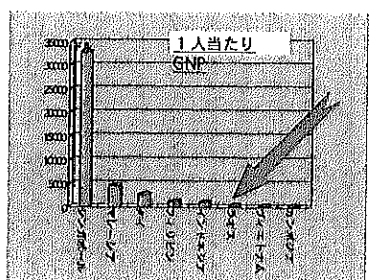
ラオスの1人当たりGNP



1人当たりGNP

日本の約1/100

ラオス	400ドル	48000円
日本	40000ドル	480万円



ラオスクイズ第19問

ラオスの人口は約600万人、民族は50以上あり、伝統の文化が豊か。



学校の制服もシンシンをはいた少女



伝統的な色、仕立ての技術を学び、女性も、現金収入の道を知ります。

JICAとNGOの協力援助
女性の自立への支援

ラオスクイズ第20問

子どもたちの生活は、どのように変化していますか？



働く子どもたち

店番と子守り…
寂りになるね

道の修行中

水くみは鉄
の臼



働く子どもたち

新市の手伝い

利便する
少女

自作のポシェットを
走る目次の少女
20リットル

ラオスクイズ第21問

水はどのように使われていますか？

A
B
C



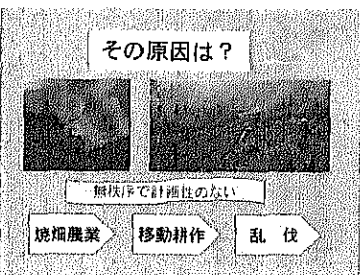
豊かな水資源

山からパイプを引いて簡便な水道を作りました

トイレも水洗で清潔でした。

ラオスクイズ第22問

日本のODAにより、2003年には約100万ヘクタールの森林面積が回復しました。



その原因は？

無秩序で計画性のない

焼畑農業

移動耕作

乱伐



森林復旧プロジェクト

日本の役割

村の人と協力して、苗を育て、植林をする林業を支援する

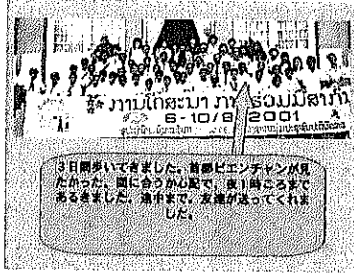
ラオスクイズ第23問

（左）は、（右）は、（左）は、（右）は、



ラオスクイズ第24問

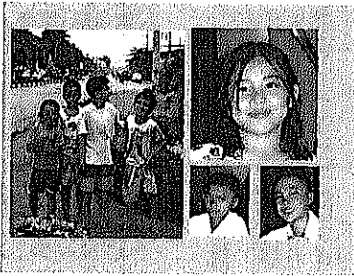
「地方から出てきたら、ちと一箱送ってあげたいな」といって、このお土産を買った人は、どこから来たのでしょうか。



3日間歩いてきました。首都ビエンチャンが見たかった。間に合うか心配で、夜1時にまであるきました。途中まで、友達があっけくくれました。

ラオスクイズ第25問

ラオスの一帯の村で暮らす。



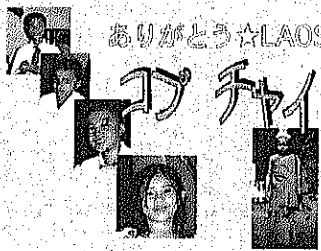
ラオスクイズのおまけ

テレビで見たラオスですが、実際に行ってみたい人は、AかBを選んでください。



ありがとう☆LAOS

アチャイ



「森の国」ラオスを探ろう



黒田紀子
KURODA NORIKO

兵庫県三原町立三原中学校 / 社会科 (3年公民)

実践教科 / 社会科 時間数 / 3時間×2クラス=6時間

対象生徒・学年 / 中学校3年 対象人数 / 2クラス80名

カリキュラム案

■実践の目的

- ①生徒にとってなじみの薄いラオスを、実物や写真・ビデオ等で実感し理解を深める。さらに森林が急速に減少するラオスの実情を知り、様々な考

え方を通して、これからの国際化時代に生きる日本人としてのあり方や姿勢の基礎を育てたい。

- ②地球環境問題を様々な立場から考えようとする態度を養う。
③ODA及びNGO、unicef等、国際援助組織の存在について関心を持たせる。

■授業の構成 (3年公民用)

時間 / ①テーマ / ②ねらい	方法・内容	使用教材
<p>1時間</p> <p>○「ODAとNGO」</p>	<p>(1)ODAとJICA、また数々のNGOの活動を資料を通して知る。</p>	<p>・教科書・資料集・新聞広告・ユニセフ資料</p>
<p>2時間</p> <p>○「ラオスを知ろう！」</p> <p>○ラオスについて、写真や事物、ビデオ、パンフレット等で接し、感じたことを自由に表す</p> <p>○写真を見て自分が一番興味深いと感じたのを選ぶ。またその理由を述べる</p>	<p>(1)ラオスの様々な事物に実際に接し、それらから得た印象・感想・疑問等をポストイットによりブレインストーミング式にできるだけたくさん記入し、班別に、台紙に貼り付けていく。</p> <p>(2)すべての写真を見て、心に残った写真の番号(A~Z・ア~カの何番)を、用紙に記入し、そのわけを書く。さらに、活動の事後感想を書く。</p>	<p>・ラオス関係の物品 地図・国旗・ビデオ・写真・絵はがき・文字表・雑誌・新聞・教科書・民族衣装一式(シン)・木彫像・紙布・切手・紙幣・JICA等資料・モン族土産(刺繍4種・ネックレス・骨董像等) ・ポストイット ・ラオスの写真によるフォトランゲージ ・プリント</p>
<p>3時間</p> <p>○「君は森の国ラオスを救えるか？」</p> <p>○討論し、様々な立場から考える態度を養う</p>	<p>(1)10人の様々な立場の人物になりきり各自が意見を出し合い、聞きあう。</p> <p>(2)立場を離れて自分の個人的な意見を出しあう。最後に振り返り、感想を持つ。</p>	<p>・シミュレーションの自作プリント ・振り返りと感想のプリント</p>

授業の詳細

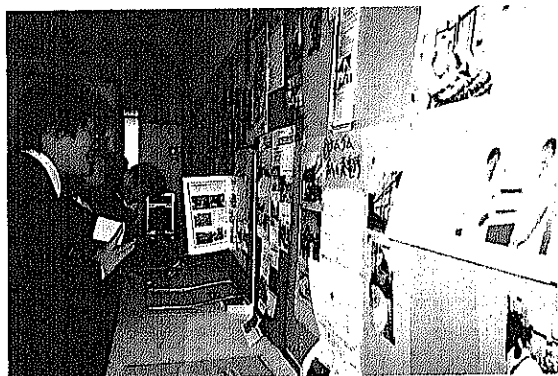
1時限目 「ODAとNGO」

■授業の流れ

- (1) 今回の研修旅行の趣旨や目的をODAの説明とともに述べ、国内に膨大な借金をかかえながら資金援助額は1兆円以上で日本が世界一であることなどについて話した。この時生徒に海外援助の賛否を聞いたところ「借金があるのに」「不景気なのに」との理由で圧倒的に援助反対派が多かった。続けてフォスター・プラン (NGO) の存在やユニセフの活動について資料ア・イで紹介した。特に途上国における子どもの置かれた状況を資料に沿って説明するとともに、戦後の荒廃から高度経済成長を遂げた日本が、海外の厚い援助を受けていたこと、その借金を返却し終えたのがやっと十年余り前ということも伝えた。
- (2) 外務省のビデオ「ODAって何だろう？」で現地の様子を約20分間視聴した。その後再度、海外援助の賛否とその理由を問うたところ、援助に賛成する者がずっと増えていた。(ただし授業案では「部屋の上すみ」の参加型だが、時間不足で挙手にした) 最後に賛否の理由と、授業の感想を書かせた。

■生徒の様子

- ・国際貢献・海外援助について詳しく話した。事後感想を読むと、同じ年頃の子どもの置かれた



2時限目「ラオスを知ろう！」

悲惨な状況やビデオで日本の援助に感謝する言葉や表情に心を動かされた様子であった。はじめは海外援助に「反対」だった子らの多くが「賛成」「どちらかといえば賛成」派に変わったことでも察しられる。

2時限目 ラオスを知ろう!

■授業の流れ

- (1) 空き教室を利用して、研修旅行で撮ってきた多数の写真や資料を分野別に分け、ビデオや生活用品、土産物等、可能な限りすべて展示しておいた。

・世界地図・ラオス地図・ビデオ(4時間分)・写真・絵はがき・文字表・雑誌・新聞・教科書・民族衣装一式(シン)・木彫像・紙布・切手・紙幣・JICA等資料・モン族土産(刺繍4種・ネックレス・骨董像等)

- (2) まず最初に、この授業の趣旨をODA並びにJICAの事業説明とからめて説明した後、プリント(資料1)でポストイット学習について説明した後、展示物を見てまわり、それらから得た印象を班別に各人に自由に貼り出させる。さらに、その中でベスト1を選び、その理由を書かせてベスト1コーナーに貼る。(写真参照)
- (3) プリントで授業の感想をまとめる。次の授業で特に学習したいことがあればそれも書かせたところ、ラオスの人たちの生活(特に食物・物価)について知りたいという希望が多かったので、それらを重点的におさえた授業を目論む。



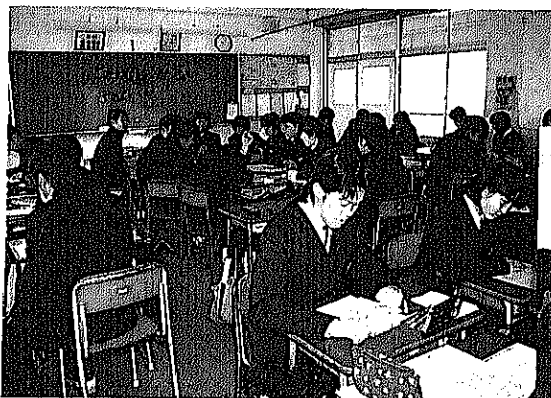
2時限目「どれをベスト1に選ぶか？」

■生徒の様子

・仲のよい友達と三々五々自由に動き回り、くまなく展示物を見て回って次々にポストイットを貼っていくような授業は、生徒たちには初めての経験でとてもなごやかな楽しい雰囲気だった。特にベスト1コーナーを設けたので、慎重さが増したようだった。

■生徒の感想 (1時限、2時限分)

- ①こんな授業は初めてだったけど、楽しかった。ラオスの人たちの生活がよくわかってよかった。
- ②ラオスの人々の写真を見ていると、貧しそうだけど、みんな笑顔で明るい。たしかに勉強とか仕事がんばってほしいけど、このままのほうがいいかもしれないと感じた。それは、これから経済が発展したら、あのころの生活はよくなったと思うかもしれない。このまま平和だったら、貧しくても幸せなんじゃないかな。
- ③最近の僕らの世代はこういうことに関わるのが少ないのでこういう機会を与えてもらうことはとてもいいことと思う。やっぱり国連関係の国のことは知っていることが多いけど、もう少し視野を広げることも考えておかなければならない。
- ④日本からの協力隊や援助金があんな風に開発の手助けになっていることがうれしい。日本の子どもたちよりも経済的には豊かでなくてもすごく心がきれいな感じがした。
- ⑤ラオスの人たちは生活が苦しいにもかかわらずみんな笑顔ですごかった。ODAは最初必要ないと思った。でもラオスの人たちを見ると、人一人一人みんな同じ人間だからODAもいいと思った。



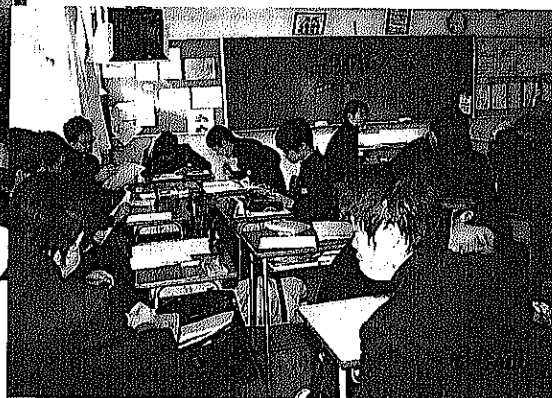
3時限目「森林開発会議」開催中…

3時限目 君は「森の国」ラオスを救えるか?

- (1) ラオス概要のプリント(資料3・4)でラオスでは山地が8割も占める一方、耕地が4%に過ぎないこと。国民の大部分が農業だが伝統的に焼き畑を行ってきたことと外貨を得る手段として輸出で木材伐採が続いたために、森林面積が激減していることを説明した。次に10人ずつの4グループ(1つは9人)を編成し、プリント(資料5)で説明した上で役割を振り分けて机移動し「森林開発会議」のシミュレーションを始めた。(写真下)
- (2) 班に個人の役割を説明したプリント(資料6)を配って自分の役割をしっかりと読ませ、討議に入る。様子を見て区切りをつけてから、次に役割を離れて自分の意見を出し合った。最後に振り返りの時間をもって感想をまとめた。

■生徒の様子

・ある程度道徳、学活で参加型を体験している生徒たちだが、いきなり環境問題で難しい役割を与えられ、練習時間もとらずでは、うまく進行しないと予想していたが、仲のよい子らが集まったりしっかりしたリーダーのいるグループはよく発言できていた。盛り上がりすぎのグループもあったが、反面、機械的に寄せたところは滞りがちだったけれど、そこは3年生。あとの



感想をみる限りいろんな立場の言い分は一応聞けていたようである。成果はともかく、やはり主体的に活動する授業の強みではあった。ただ教室の狭さとか声の大きさの問題とか、物理的な面で条件がよくなかったといえる。

生徒の感想

- ①個人個人の意見は反対だったけれど①～⑩の人になりきって話し合いをするとそれぞれいろいろな意見がありました。反対でも賛成でも、どれも大切に意見を1つにまとめるということは難しいと思いました。
- ②私はラオスについて深く関わったりしたことはなかったので、今回の授業でいろいろなことを学んだ。特に森林伐採のいろいろな意見は環境問題という大きな見方をするので伐採はいけないという結論になるけど、生きていく手段として考えている人の意見は無視のできるものではないと思った。
- ③いろんな意見があると思った。片方の人の肩をもつと違う人の肩を持ちたくなかった。
- ④自分の気持ちと違うのにこんな役割とか決めてやってもあかんと思う。自分の考えてることと逆やったらめっちゃやりにくいわ。
- ⑤渡辺さんの立場では森林伐採は必要なものだけど、その領域を超すとそれでは自然がなくなってしまう。人と自然がいっしょに暮らすのは今では難しくなっている。確かに病気を治すために木を使うのは大切なことだけど木など植物を守ることも地球を守る、すなわち地球上の全てを守ることになると思う。だから森林伐採は賛成というわけではなく反対というわけでもない。

■成果と課題

せっかく研修に参加するのだから出来るだけたくさん資料収集を、と欲張った結果がフィルム20本分の写真と4時間分のビデオ、分厚いパンフレットに新聞、お土産品の数々だった。そこでこれを一気に展示してのフォト&グッズランゲージ式の授業化を思いついた。授業するにもやはり欲を出して、担当している1年と3年の二学年四クラスに、それぞれねらいを分けた指導案を立てた。その間、自前の資料作りと授業展開を考えることに没頭し大変な思いをしたが、生徒たちは真剣か

つ楽しげに授業に参加したし、私も充実感と達成感を得られた。(ビデオを編集していないのが心残りだが)

常日頃の授業で、生徒たちには「世界に通用する人になろう」との立場で、グローバルな視点で物事を見、考えられるような指導を心がけているが、遠い世界の抽象的な話でなく、ラオスという国を焦点化しての今回の授業は、臨場感をもって受けとめられたものと自負する。子どもたちの、途上国への内なる偏見を払拭するとともに「知った」「分かった」から、自分も実際に「行ってみたい」「やってみたい」というレベルにまで到達させたい。今後もこうした経験を重ねて、一人でも多くの生徒を大切な世界の“人材”“地球人”として人類全体や地球環境に対して共感できる人として、また共生への人権感覚を持った人として育ちを支援したい。最後に生徒の感想を紹介し、結びとする。

生徒の感想

- ・ラオスの写真を見るかぎりでは幸せそうなのに実は貧しかったりするところはとても悲しいです。森林が失われていたりするけど収入は必要です。日本がもっと手助けできればと思います。ラオスの人々が日本を好いてくれていると聞いてうれしかったです。今回の授業はとても楽しかったです。
- ・(前略)また先生の体験談のようなものを教えてください。ラオスという国だけでなくいろいろ困っている国がある。その国をどんどんなくしていくのは、今の私達である。これからの私達の生活をよりよく、幸せにするには、困っている国を助けること私達のできる範囲で。協力しあう。そのことを学びました。またこの勉強をいかして何かやれればと思います。

※参考文献「地球市民を育む学習」(明石書店)
JICAラオス事務所のパンフレット類

資料1

ラオスを知ろう! JICA (ジャイカ) を知ろう!

タイも少々……

() 年 () 組 氏名 ()

※今日は、ポストイット学習です。 ※ポストイットに、必ず自分の名前を書くこと!

①教室に展示した写真・品物・パンフレットなどから、あなたが自分のアンテナでキャッチしたことを、どんどんポストイットの用紙にメモして、窓にはった白紙にはっていてもらいたいと思う。(班別に)

例：〇〇から (写真の場合は記号と番号を書く。その他はその名を書く)

- ・感じたこと
- ・疑問に思ったこと
- ・質問したいこと
- ・想像したこと
- ・びっくりしたこと
- ・変だと思ったこと
- ・おもしろかったこと

などなど

例：
写真の時

G-15

黒田紀子

・写っている子どもの表情がすごくいいなあ。ラオスの子どもたちはどんな毎日をおくっているんだろ。テレビとかゲームとか、おこづかいとか、学校のこととか知りたいもんだ。

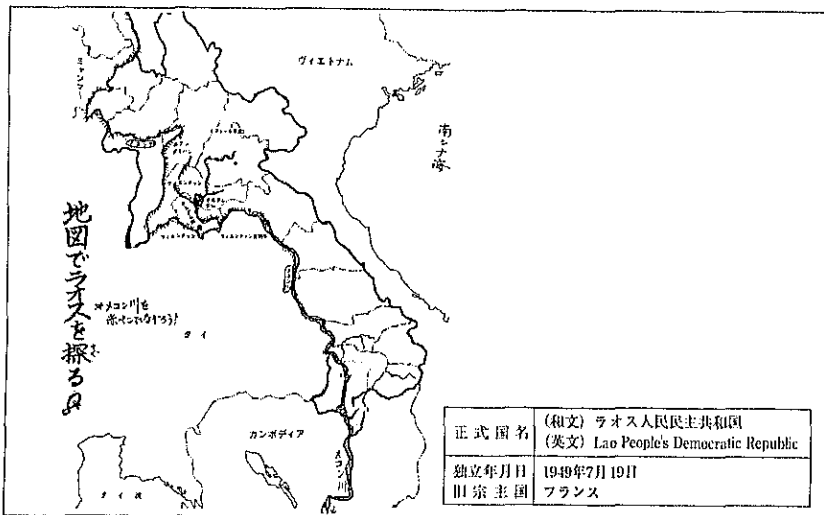
②すべての写真・品物・パンフレットなどの展示物の中から、自分が一番きょうみをひかれたものをひとつ選んで、その記号番号か名前と、選んだ理由をポストイットに出来るだけくわしく書いてはってもらいます。(これも班別に)

③次の授業であなたが特に学習したいことをリクエストしてみてください。

授業の感想 _____

資料2

ラオスを知ろう!



資料3 ラオスを知ろう!

正式国名	(和文) ラオス人民民主共和国 (英文) Lao People's Democratic Republic
独立年月日	1949年7月19日
旧宗主国	フランス
政体	人民民主共和制
元首の名称	ヌハケ・ブームサワン大統領 (Nouhak Phoumsavanh) (1992年11月就任、任期5年)
位置・面積	北緯14度～22.5度、東経100度～107度 237千平方キロメートル ※日本の本州ほどの広さ。日本は38万m ²
首都	ヴィエンチャン (Vientiane)
総人口	約526万人 ※兵庫県の人口は約540万人・人口密度22人/平方 ※日本は330人/平方m ²
民族等	タイ系(ラオ、黒タイ、白タイ、ルー族など) 50%、プロネシア系(カー族など) 30%、中国系(メオ族など) 15%など 全部で68種族
公用語	ラオ語(その他の言語としてフランス語、英語等がある)
宗教	国教ではないが、仏教徒が95%を占める。
暦	〈日本との時差〉-2時間
通貨	キップ。ビエンチャン市内ではキップ以外にタイのバーツやドルも使える。1ドル約8000キップ(日本の100円は約5000キップ、 ラーメン1杯約20円)
平均寿命	約54歳(男52歳・女55歳) ※日本は男77歳・女85歳
1人当たりGNP	357ドル ※日本は3万8000ドル
教育	学校教育は小学校5年・中学校3年・高等学校3年の5・3・3制。大学は1つだけ。 就学率は小学校11.6%・中学校36%・高等学校15%。 15歳以上の識字率は約60%(男74%・女48%)。 ※日本はほぼ100%近く
歴史	(1) 14世紀～19世紀 ランサーン王国時代(ランサーンは「百万の象の国」の意味) ・首都は現在、世界遺産指定都市になっているルアン Prabang にあった。 17世紀に3王国に分裂。18世紀にシャム王国(今のタイ)の属国。 後、北部山間部はさらにベトナムの支配下に置かれる。 (2) 19世紀末 フランス植民地時代 ・帝国主義列強の1つフランスがシャム王国からラオスを奪い、ベトナムともども植民地にする。しかし、ベトナムに対してとは違って、徹底的な愚民政策をとる。ラオス国内ではたびたびフランスに対する蜂起が起きた。 (3) 1941～1975 日本軍進駐～インドシナ戦争時代 ・太平洋戦争で日本がインドシナへ進駐し、各地で民族独立運動が高まる。日本の敗戦後、再びフランスが支配に乗り出し、 しかいらい王国を建てた。このため内乱が起き、社会主義系のパト・ラオが数々の内部闘争の末、王政を廃止し人民 共和制に移行。ラオス人民共和国が成立し、革命党書記長のカイソンが首相に就任。大きな流血事件を伴わない「静かな 革命」が成された。 (4) 1975～現在 ラオス人民民主主義共和国 ・社会主義国家を目指したラオスだが、人材と資本の不足に加え、外国の援助もなく、政治はマヒ状態になった。そこで 大統領になったカイソンのもと、対外開放と市場経済を採用しアセアンに加盟。彼の死後、一党独裁体制のまま経済発展 をめざしている。

資料1

ラオスといえば？

()年()組 氏名()

◎地図とプリントからラオスを知ろう。

①大きな河…()河 (源流はチベット高原→中国→ラオス→タイ→カンボジア→南シナ海)
※全長4425km 世界12位

②隣国…

 └▶ 歴史上どんな影響があったでしょうか？

③海がない = ()国 ()

④山地・高地が多い…国土の約()% →▶ 別名()の国

⑤平野が少なく、農業のできる耕地は全面積の()% →▶ 食料は()

└▶ ※ラオスの主食は(米)の(米)である

⑥どんな農業？

平地が極端に少ないので山の斜面で昔からの伝統的な()農業をすることが多い

⑦山が多いため森林資源である()を外国にたくさん輸出して外貨を得ている。

⑧上の⑥⑦が原因となって森林は急激に() →▶ この50年間で四国と九州の広さの森林がラオスから消えた。

⑨森林破壊でどんな影響が？ →▶ 1年のうち() (熱帯雨林気候です)になると下流の方で()
や()などが最近よくおこり大きな被害がでる

⑩ラオスのお金の単位は()という。※5000()で約100円。お札だけでコインなし。

└▶ インフレがひどいのですぐ変わる

●おさつにはどんな絵が描かれているか？

・初代の()…革命の英雄とされている

・()ダム…()の資金技術援助で完成 →▶ ()発電で電気輸出

・タットルアン()…ラオス人の95%は() ※男は一生に一度は()になる

⑪日本のGDP(国民総生産)はラオスの約()倍 ※けど日用品はムチャ安いよ

⑫平均寿命が日本よりずっと低いのは()の()の死亡率が世界的に高いから

※そのおもな原因は()がおくれていることと()こと

⑬ラオスの就学率はかなり()それは多くの子どもの()から

⑭識字率とは()の割合。ラオスでは15歳以上の10人に4人は字が()

⑮ラオスはパンがとてもおいしくて安い、それは独立前の()の影響である。

⑯ラオスの国土面積は日本の()くらいだが、人口は()県くらい。

⑰ラオスの首都()ではバイクがとても多く特にタイ製の()車が人気がある。

資料2

森林復旧計画 君は「森の国」ラオスを救えるか？

ラオスは日本の本州ほどの国土面積をもっているが、その8割は山地・高地である。耕地は4%にすぎない。ここ50年で森林面積は70%から40%台になった。伝統的な焼き畑と輸出のための木材伐採が原因である。今回、国連の呼びかけで地球環境を考えるということで「森林開発会議」が開催されることになった。メンバーは各界代表の次の人たちである。

メンバーの10名

- | | | | |
|-----------------|----------------|------------------------|------------|
| ①政府入植促進担当チームチーフ | ヌハクさん(男37歳) | ⑥森を守る会(NGO)代表 | 池田さん(女37歳) |
| ②入植者モン族ナムニャム村代表 | ソイロージャさん(男41歳) | ⑦メディコ株式会社(多国籍企業)日本支社社員 | 渡辺さん(女30歳) |
| ③国有木材会社営業課長 | カムラさん(男55歳) | ⑧河川流域地方委員会ルー村代表 | ラーさん(男45歳) |
| ④国防省担当官 | アヌーサリーさん(男56歳) | ⑨青年海外協力隊員(JICA) | 西さん(男25歳) |
| ⑤高地民族ヤオ族ボンホ村村長 | ソムリスさん(男63歳) | ⑩日本の中学生 | 森田さん(女15歳) |

やり方

①それぞれの役割カードの人物になりきって、話し合ってください。そして森林伐採に賛成か反対かを、グループで決定してください。

②先のカードの役割を離れて、個人的に森林伐採に賛成か反対かを、グループで話し合ってください。

※意見を言う順番はグループに任せます。司会者が必要なならグループ内で決めてください。

()年()組 氏名()

—討議を終えての感想—

※上のメンバー10名のうち、自分の役割に○をつける。

—今回ラオスの授業の感想—

資料6

①政府入植促進担当チームチーフ ヌハクさん(男37歳)
〔個人役割カード〕

あなたは財務省の役人です。わが国は現在ひどいインフレで、政府の財政は赤字をかかえています。あなたの役割は、都市部に住む貧しい人々や山間部の奥地に住む少数民族を森林の開拓農民として送り込み、経済的利益をあげることです。

②入植者モン族ナムニャム村代表 ソイロージャさん(男41歳)
〔個人役割カード〕

あなたは5年前、中国国境の山奥から紛争を逃れて、森林の中の新たに開墾された土地へ移住してきたモン族の代表です。地方では「入植者」と呼ばれています。土地は与えられましたが、そこにはわずかの荒地があるばかりでした。村人たちは一生懸命働き、貧しいながらも落ち着いた生活ができるようになってきました。しかし、村にはまだ電気がありません。ラオ語を話さないのでも子供たちの教育のため学校も必要です。井戸はJICA(ジャイカ)のおかげでやっと一つ掘れて助かっています。だんだん人口も増えてきましたが、土地を増やすことが森林破壊につながっていると言う人もいます。

③国有木材会社営業課長 カムラさん(男55歳)
〔個人役割カード〕

あなたは500人の従業員がいる国有木材会社で、高級家具や窓枠、雨戸などの材料になる木材を西ヨーロッパや日本に輸出する仕事をしています。売り上げはのびていますが、純益は低いままです。原因は、高価な伐採の機械を北アメリカから輸入しているためです。外国に売れる木を切って運び出すためには、その周辺の木もたくさん伐採しなければなりません。日本の商社から1億ドルの投資計画も持ち込まれており、これからも伐採は続けねばならない状況にあります。

④国防省担当官 アヌーサーリーさん(男56歳)
〔個人役割カード〕

あなたはラオス国防省の代表で、ラオスを取り囲む5つの国々から自分の国を防衛するために、森林を切り開いて軍用道路を建設したいと思っています。敵対関係になるかもしれない国の国境まで、軍事用の車などを送り込む時間を短縮するためです。現在、その地域は空路以外の方法では通れないのです。道路の必要性をアピールするため、あなたは道路が森林資源を運び出すためにも役立つと主張しています。ただしこの計画には、国内外の環境保護団体から強い反対があるため、財務省の入植計画がよききっかけになると思っています。

⑤高地民族ヤオ族ポンホ村村長 ソムリスさん(男63歳)
〔個人役割カード〕

われらはラオスという国ができる前からこの森に先祖代々住んでいました。みんなで森を守りながら焼き畑で陸稻(おかぼ)を栽培し、森の動物や河の魚をつかまえて暮らしてきました。ところが国が日本へ輸出するために外からやってきた人たちに森の木を切らせてごまかっています。われらの生活は森とともにあります。だからこの森を失いたくない。伝統的な暮らしを続けていきたいのです。

⑥森林を守る会(NGO)代表 池田さん(女37歳)
〔個人役割カード〕

あなたは、国際的に活動する市民団体の代表です。世界中で増えている熱帯雨林の破壊を防止する仕事をしています。森林に暮らしたり、そこに暮らす人々を説得し、木材の利用を減らし、植林プログラムを進めることです。この運動の方針は非暴力で、継続的であることです。森林に住む人たちに地球全体の環境問題などの情報を知らせ、森林の大切さを訴えることが役割です。

⑦メディコ株式会社(多国籍企業)日本支社社員 渡辺さん(女30歳)
〔個人役割カード〕

あなたはロンドンに本社があり20カ国以上で営業している多国籍企業の子会社の社員です。森林の植物からしか取れない外科用麻酔薬を生産しています。この薬だけでなく、森林の植物から、まだ開発されていない何千もの植物の利用研究プロジェクトをまかされています。医学の専門家は、ガンや心臓病などにきくものが、このような植物から発見できると思っています。そうすれば会社の利益にもなるだけでなく、人類への貢献にもなります。森林の破壊はそれら貴重な植物や生態系の破壊にもつながっています。そこで親会社は、研究のため、森林破壊のペースダウンをあなたに命じました。

⑧河川流域地方委員会ルー村代表 ラーさん(男45歳)
〔個人役割カード〕

あなたは、森の300km下流に住むルー村5千人の代表です。30年前まで村は単調ながらも快適な生活を送っていました。雨季には洪水に見舞われやすい土地ながら、なんとかやってこれたのですが、1970年のモンスーンではメコン河の岸が決壊し、村は破壊されてしまいました。たんぼも失い、何十人もの死者も出ました。それから毎年のように被害が出ています。貧しさのため、都市へ仕事を求めて村を捨てていく人が次々に出ています。森林をたくさん伐採すると洪水が起こるということは、以前から言われていました。用水路や川に泥が積もるようになったのも、木の乱伐で山の土が浸食しているからだと思われます。これらの流域の問題を解決する方法を、早くつぎとめなければならぬのに、森林破壊は進む一方です。

⑨青年海外協力隊員(JICA) 西さん(男25歳)
〔個人役割カード〕

「森の国」といわれたラオスの森林は、この50年間に、日本の九州と四国を合わせたくらい面積が失われました。原因は海外に輸出するための木材の伐採と大規模な焼き畑です。あなたは、ラオスの高地に住む農民が焼き畑農業をしなくてすむ方法を、村人に指導するために日本から派遣されました。貧しい自給自足の生活から、現金収入を得られるように、商品作物の栽培をすすめたり、森林資源を活用して、品質の良い和紙を作る紙すきや紙布という機織りの技術を村人たちに伝授したりしています。なかなか好評で、研修の希望者が多く、順番待ちの状態です。これをもっともっと広げて、森林が前の状態にまで復活してくれたらと願っています。

⑩日本の中学生 森田さん(女15歳)
〔個人役割カード〕

あなたは、日本で大量に消費されている紙の原料である木材が、どこから輸入されているかも知りませんでした。今回のこの会議に突然招かれてとまどっています。トイレットペーパーやティッシュペーパー、コピー用紙や広告、新聞、雑誌等、使い放題の日本ですが、このごろ日本では古紙のリサイクルはうまく進んでいないことをニュースで聞いたことがあります。ゴミ問題が深刻になっている日本の現状も気になっていますが、日々の暮らしに追われて深く考えずに過ごしてきました。

資料A

仕事に追われ、 生活に疲れる。 日本では 大人の話です。

Photo: Max Stryker

マンスリー・サポーターになって、働く子どもたちをご支援ください。

マンスリー・サポーターは毎月11日1,000円で、心身に影響を及ぼすような環境で働く子どもを労働から解放し、母親医療や教育の面でご支援いただく制度です。日本企業では有給や無給と協力して毎年500人の子どもを労働現場から救出し、公立学校に入学できるよう購入費などをお支払いします。子どもは就業工場を助産などで働き、親で暮らすために、食料や医療を受け、1日10時間以上労働せざるを得ない状況にいられています。資料請求の欄、「マンスリー・サポーター」の資料請求をお申し込みください。

フォスター・ペアレントを募集しています。

フォスター・ペアレントは、途上国の子どもたちと交流し、子どもに教育費や医療費などを毎月1,000円の援助金で支援して下さる方です。ひとりの子どもを援助することによって、その子どもが暮らす地域にも目に見えるものとして貢献していただけます。いかなる国籍でも歓迎します。① 週5時間以上ご自宅で子どもと過ごす時間があります。② 必要な費用はすべてご負担していただきます。③ 必要な費用はすべてご負担していただきます。④ 必要な費用はすべてご負担していただきます。⑤ 必要な費用はすべてご負担していただきます。

家族を支えるために、くる日もくる日も働きつづける子どもたち。貧困に苦しむ国々では見られた風景になっています。いらばん遊び、いらばん学ぼうと大切な時間を、労働に奪われる。疲労をかかえる小さな肉体を思うと、とてもやりきれない気持ちになります。その問題を解決する道は何か。それは単なる物資の供与ではなく、そこに住む人々が自立して暮らすための「持続する知恵と力」を持つこと、とフォスター・プランは考えます。そして私たちがすべきは、まさに、そのための手助けなのです。地域のみなさまと協働に関わりながら、さまざまな面からサポートをつづける私たちに、あなたの力を貸してください。①フォスター・プランは、国連に公認・登録された国際NGOです。アジア・アフリカ・中南米諸国の子どもたちが貧困から抜け出し、生活環境を向上させるための援助活動をしています。フォスター・プランの目標は、援助が終了しても、住民自らがその成果を維持できるような力をつけてもらうことです。

子どもたちへの
支援を通じて知らない国を知る。
フォスター・プラン。

FOSTER PLAN
Member of Plan International

0120-400-422
http://www.fosterplan.gr.jp/

福光屋 コロムビアファミリークラブ ビクターファミリークラブ この紙面は左記各社の協力で作成されました。(要印刷)

資料B



本誌は学校に行きたいけれど...
① 親みに身をまかせたいけれど親の収入が足りない。
② 親の収入が足りないけれど学校に行きたいけれど親の収入が足りない。
③ エジプトの首都カイロで生活するスリット・トルメンの家族は、親の収入が足りないけれど学校に行きたいけれど親の収入が足りない。
④ エジプトの首都カイロで生活するスリット・トルメンの家族は、親の収入が足りないけれど学校に行きたいけれど親の収入が足りない。
⑤ エジプトの首都カイロで生活するスリット・トルメンの家族は、親の収入が足りないけれど学校に行きたいけれど親の収入が足りない。
⑥ エジプトの首都カイロで生活するスリット・トルメンの家族は、親の収入が足りないけれど学校に行きたいけれど親の収入が足りない。

教育を通じ、子どもたちの未来を開くために ユニセフは次のような活動をしています。

- 学用品が買えず学校に行かない貧しい家庭の子どもに文房具を支援しています。3,000円でノートやえんぴつ、消しゴムなど必要最低限の文房具セットを12人の子どもに贈ることができます。
- 子どもたちが学校をやめずに興味深く学べるよう先生の研修を行っています。6,000円で授業をわかりやすくするための研修を4人の先生に行い、教材と指導書を支給できます。(参考例: ミャンマー)
- 子どもたちが保健知識を身につけることで病気や怪我を防ぐよう支援しています。10,000円で性的搾取を受けやすい環境にいる子どもたちのために、HIVエイズから身を守るための教材8クラス分を支援できます。
- 木の下の移動センターの中でも教室が建てるよう教材セットを提供しています。30,000円で先生1人と生徒40人分の教材が入った「EDU-KIT (教育キット)」を2クラス分提供することができます。
- 遠隔地などで学校に行けない女子の教育を始める支援をしています。女の子の立場を理解している先生を雇うために、50,000円で女子教育に関する研修に先生7人を参加させることができます。(参考例: ケニア)



子どもたちに開く未来を！
ユニセフの活動は、みなさまのご協力
を支えられています。

(財団)ユニセフ協会
ユニセフ日本委員会
〒108-8507 東京都港区南青山4-6-12
ユニセフハウス
TEL 0120-88-1052
FAX 0120-88-1052
ホームページ www.unicef.or.jp

学校に通う夢。

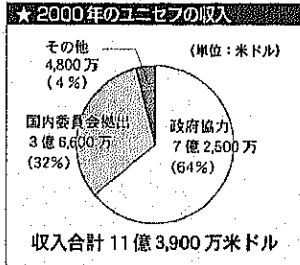
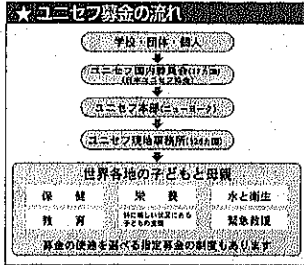


子どもたちに学ぶチャンス！

unicef
国際連合児童基金

みなさんの力が支えるユニセフ ユニセフ募金のゆくえ

ユニセフの活動はみなさんのご協力でありたいです。
みなさんから寄せられた募金はユニセフの活動資金になり、
世界各地で役立てられています。



★2000年のユニセフの事業別支出

保健	40%
教育など	18%
水と衛生	12%
コミュニティ開発・女性支援	9%
子どもの保護	8%
栄養	7%
調査、モニタリングなど	6%

★100円でできること

- 肺炎にかかった子どものための薬 (抗生物質) なら 3人分 (5日間分)
- びりで体から水分がなくなって死んでしまうことをふせぐこな (経口補水塩) なら 13ふくろ
- 失明 (目がみえなくなる) をふせいだり、病気に強いからだをつくるビタミンAのカプセルなら 41錠

★100円がたくざんあつまること

- 必要な勉強道具 (えんぴつ・ノート・消しゴムなど) 228円
- マラリアを運ぶ蚊から身を守るために、殺虫剤処理をした蚊帳1つ 480円
- 6つの病気をふせぐ予防接種 (*結核、はしか、百日ぜき、ジフテリア、ポリオ、破傷風) 1,800円
- 子どもの栄養状態を調べるための体重計 3,957円
- 難民キャンプでも40人の子どもが勉強できる教育キット 12,294円

★学校募金の参加校と募金額 (2000年度)

合計 3億6,684万7,908円

1,061校 [幼稚園] 2,195万5,517円
8,296校 [小学校] 1,092,222万7,733円
2,893校 [中学校] 8,641万2,730円
1,267校 [高等学校] 4,905万8,568円
556校 [大学等] 1,799万7,368円

■日本のみなさんからのユニセフ支援

2000年度、日本のみなさんからは合計で120億円近くの募金をおよせいただき、ユニセフの活動をを進める大きな力となりました。学校のみなさんからいただいたご協力は上のとおりです。

(1ドル=120円で計算、2001年6月現在)

★1人あたりユニセフへの拠出額

1人あたり拠出額 (米ドル)	一人あたりのGNP
①ノルウェー 12.30	37,890
②スウェーデン 6.76	29,040
③デンマーク 5.76	32,030
④オランダ 5.48	24,320
⑤ルクセンブルク 3.69	44,840
⑥スイス 3.54	38,350
⑦フィンランド 3.23	27,780
⑧韓国 1.78	22,640
⑨アイルランド 1.52	19,160
⑩オーストラリア 1.32	20,690
⑪日本 1.18	32,230

※上記はOECDの国別、ユニセフ国内委員会、NGO、その他の拠出を含む。上記の国は経済協力開発機構の開発途上国委員会 (OECD/DAC) 加盟国。資料: 2000年の国別ユニセフ、ユニセフのGDP (1999年) 及び世界開発見通し (2000年度、入手は個人見込みによる)。

日本の子どももユニセフの支援で元気になりました。

今や経済的に豊かになった日本ですが、その際にはユニセフから受けた支援がありました。第二次世界大戦後の日本では、多くの子どもたちが家を焼かれたり、両親を失ったり、貧しい状況におかれていました。1949年 (昭和24年) にユニセフは日本の子どもたちへの支援を開始し、学校給食に使われた脱脂粉乳や毛布、衣料の原料、医薬品などが提供されました。支援は1964年 (昭和39年) まで15年間にわたって続き、支援総額は当時の金額で65億円にものびりました。



Walking Our Way

— 地球人の一人として —



中澤久寿

NAKAZAWA HISATOSHI

高知県伊野町立伊野南中学校/数学

実践教科/総合的な学習の時間 時間数/35時間

対象生徒・学年/中学校3年 対象人数/84名

カリキュラム案

■実践の目的

限られた情報と偏ったイメージーションだけでは、本当の意味での他者連携や自分たちの在るべき

役割は見え難い。より体温のある学習を進めていくために、異なった文化や生活様式を持つ様々な国の実情や人々の生き方から学ぶ。そして、地球人の一人として共生の道に障害となる現存する諸問題を提起し、その原因・事由を議論追求していく中で、解決の為に自らの関わり方を発信していく姿勢を培う。

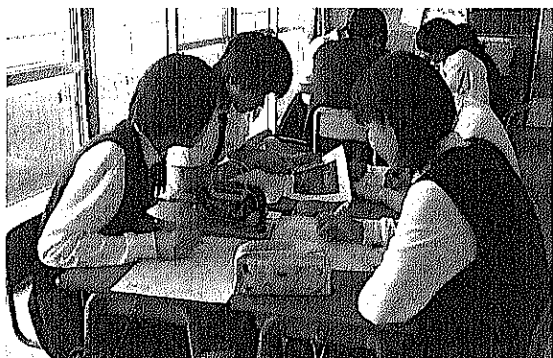
■授業の構成

時 限	方 法 ・ 内 容	使用教材
1~4時限	<ul style="list-style-type: none"> ・4つのコーナー&無人島ゲーム ・フォトランゲージ ・非識字体験ゲーム 	<p>http://www.jika.co.jp/imawatashi/imawatashi-h71.html 人権同和講座資料 「あるおかあちゃんの話」 (新しい開発教育のすすめ方)</p>
5時限	海外青年協力隊員OBによる講話	地球の仲間たち(開発教育を考える会) 世界地図
6~10時限	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々の食生活について調べる ・留学生による各国ごとの調理実習 	県内在住のインド、中国、バングラデシュ 留学生招致(カレー、餃子を調理)
11~13時限	<ul style="list-style-type: none"> ・もしも私たちのクラスが世界なら ・青年海外協力隊OBによる講話 	<p>http://www.jika.co.jp/imawatashi/imawatashi-h72.html</p>
14~16時限	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題の設定 ・コース別に活動計画の作成 	インターネット、活動計画表
17~21時限	コース別に課題追求学習の深化	インターネット、町立図書館
22~23時限	海外研修報告会	PowerPointによる現地情報
24時限	中間報告	調査内容報告資料
25~32時限	<ul style="list-style-type: none"> ・コース別に各グループの課題追求学習の深化 ・各グループ毎での交流活動、体験活動 	インターネット、Eメール 各テーマ別活動研修場所
33~35時限	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の過程・成果について、コースごとに発表 ・一年間の学習のまとめ 	終了報告書、模造紙、OHP、PowerPoint、相互評価表

■授業の詳細

1~4時限目

多様な価値観や考え方があることに気付くとともに、人間らしく生きるために最小限必要なものは何かを考える。また、写真の中の立場になって考えることで無意識に持っている偏見や固定観念に気付かせる。ハングル文字で書かれた広島電鉄の地図を提示し、文字を知らないことの不便さを実感すると共に、北代 色さんの「夕やけがうつくしい」、「あるおかあちゃんの話」を資料として、いのちに関係している事実も理解する。(写真①)



写真①

5時限目

世界を見てきた生の声を聞くために、JICAのサーモンキャンペーンを利用して、青年海外協力隊OBの方3名に來校していただいた。フィリピン、ガーナ、ケニアの実状と発展途上国全般に関わる課題、そこに生活する人々の生き方や生活の知恵までスライドによる映像提示を交えて御講義いただいた。



写真②

た。生徒は初めて目にするものばかりであったが、意欲的な活動が見られた。(写真②)

6~10時限目

国際交流協会の紹介で、高知医科大学研究室留学生を講師に招き、自国の食文化についての講話と実際にカレーや餃子を調理する。最初はALT以外の外国人と接する機会が少ない生徒ではあるが、好奇心は高ぶり、言葉の壁を越えてコミュニケーションをとることができた。また、調理材料も示されたレシピを自分達で用意、作業することで、「違い」を深く認識することができた。(写真③)

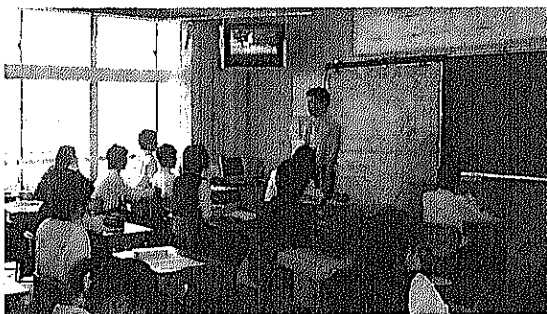


写真③

11~13時限目

JICAホームページより資料を検索し、開発途上国の様々な問題を討議する中で、世界の人口分布について数字で知るだけでなく現実を身近に捉えていこうとした。

その際、前時間の青年海外協力隊OBの方3名に再度來校していただき、国際社会と日本のつながりをテーマに御講義いただいた。(写真④)



写真④

14～16時限目

6つのコースから生徒が興味・関心のある事象を選択し、自由にウェビングをした後に、疑問点「～なのはどうしてか？」に対して仮説「～だからではないだろうか？」をたてて、個人の課題を設定した。

コース

- ・社会、環境
- ・生活
- ・芸術、文化
- ・流通経済
- ・国際協力機関
- ・教育

17～21時限目

各自で設定した課題テーマに即して、個人での学習探求の時間。インターネットや図書館の文献等により情報収集に努めた。欲しい情報になかなか行き着かなくて苦労していた。

22～23時限目

今回のホンジュラス研修において得られた情報を、できるだけ私情を交えず公開した。情報が得にくい国の現状はどうか。本当に望まれていることは何か。自分たちにできることは何か。深く考えることができた。(資料①)

生徒の感想

- ・日本では信じられないことが発見できました。
- ・日本では考えられないような社会事情や教育内容に驚きました。
- ・文化や社会制度の違いが印象的でした。
- ・ホンジュラスという国が知れてよかった。

- ・生野菜が食べられない事や、日本の資金がホンジュラスへ行っている事
- ・100円でどれくらいの人が助かるのか調べたい。
- ・青年海外協力隊は誰でも行けるのか？私も何か国際社会の役に立ちたい。

24時限目

これまでの調査、情報収集等で得られた課題から、テーマ毎に6箇所に分かれて中間報告会を行い、活動の趣旨が類似しているもの同士で小グループを作る。

25～32時限目

年間活動計画のメインにあたる時間である。課題解決の実際を行動に移す場面であり、4週に渡り水曜日の5, 6時限に組み込んでいる。前時の小グループ毎に活動計画を作成し、具体的な作業や体験活動、交流活動ができるように、校外活動の機会を保障した。その際、対外的な文書交換手段や、電話での対応の仕方、訪問先へのアポ取り等生徒の自発的な行動に対して常に指導を要した。現時点で30時限目までを実施中である。

訪問先・作業例

- ・県庁畜産課
- ・国際交流協会
- ・地域量販店
- ・地域生活用水の水質調査
- ・警察署生活安全課
- ・建設省土木事務所
- ・地域環境の汚染調査
- ・民族衣装の縫製
- ・民族楽器の製作 等

33～35時限目

未実施

資料①

